

はじめに

当研究所は、昭和37年（1962年）に公衆衛生の向上を図ることを目的として設置されて以来、感染症のまん延防止、母子関連疾病の早期発見、食の安全や大気・水質環境の確保等のため、保健衛生及び環境保全行政の科学的・技術的拠点として試験検査・調査研究を行ってまいりました。

令和元年（2019年）12月、中国武漢市において確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、現在世界的に流行し、大きな社会問題になっていることは御承知のとおりです。令和2年（2020年）12月31日までに、日本国内では感染者数は累計23万人、死者は3,400人を超えています。札幌市内では、11月17日より「北海道新型コロナウイルス感染症対策要綱」で設定する警戒ステージ4相当の状況にあり、医療機関や飲食店、学校等で複数のクラスターが発生し、12月31日で累計8,463人の感染者が発生し、229人の方が亡くなっています。

現在、新型コロナウイルスのワクチン開発が精力的に進められ、イギリスとアメリカ合衆国を始め各国で接種が開始された一方で、イギリスや南アフリカなどで新たな変異株が急速に感染を拡大する等、収束の目途は立っておりません。

このような中、当研究所におきましては、ウイルス感染症の検査・研究機関として、札幌市内の医療機関から保健所を通じて依頼のあった数多くの新型コロナウイルス検体の分析にあたり、感染者の把握に努めてまいりました。

これらの状況を踏まえ、従来の検査技術の研鑽・向上に努めるとともに、新たな検査技術の修得のために、国や他自治体の研究機関との連携強化を図り、今後とも全力で対応していく所存でありますので、関係各位の皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

ここに令和元年度の事業等を取りまとめました、札幌市衛生研究所年報第47号 2020 をお届けいたします。当研究所でのこの一年間の日常業務及び研究の成果であり、皆様方には御一読のうえ、お気づきの点があれば御指導のほどよろしくお願いたします。

令和3年（2021年）1月

札幌市保健福祉局医務監 矢野 公一  
(札幌市衛生研究所長 事務取扱)